

貴志：本日は、長岡京市とFMおとくにの共同企画としまして、【市長と語る「対話のわ」緊急企画】～「新型コロナウイルス感染症 ver.」をお送りします。

全国に緊急事態宣言が出され、市民のみなさんも不安な日々を過ごしていらっしゃると思います。そんな皆さんの不安な気持ちが少しでも解消されますように、市長が市民のみなさんの疑問やご意見に直接おこたえします。

本日インタビューアーを務めさせていただきますのでFMおとくにパーソナリティの貴志麻以子でございます。どうぞ、市長もよろしくお願いいたします。

市長：どうぞ、よろしくお願いいたします。

貴志：それでは、さっそく「対話のわ」はじめてまいります。

まず、市長から、市内の感染状況や対応状況などの最新の状況をふまえて市民の皆様へメッセージをよろしく申し上げます。

市長：改めまして、皆さん、こんにちは。長岡京市長の中小路健吾です。

新型コロナウイルスへの対策や取り組みが、2月以降、およそ2か月と大変長期間に渡っています。

この間、長岡京市では早い段階で感染事例が発生したものの、そこからの拡大は何とか現状では抑えられています。これも、市民の皆さんに感染防止に対する高い意識を持っていただいたおかげではないかと感謝申し上げます。

しかし、3月の後半の大学生によるクラスターの発生以降、京都府内でも感染者数やPCRの検査数が急増していますし、隣接する大阪府内も同様の状況であります。

こうした状況を受け、4月以降、長岡京市では、小中学校の休校の延長や公共施設の閉館等を行ってきており、市民の皆さんには大変なご不便とご苦勞をおかけしているところであります。

しかしながら、京都府や近隣府県の状況からは、いつ本市内でさらなる発生が起こってもまったく不思議ではない状況です。

「我慢」の状況が長引いておりますが、状況の悪化をなんとか食い止めるため、また、一人でも多くの命を救うためにも、今一度、皆さんにはご協力をお願い申し上げます。

ぜひ、ご一緒に、困難な状況を乗り越えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

貴志：市長、ありがとうございました。

それでは、ここからは、事前に市民のみなさんにいただいたご質問・ご意見に市長が答えていきます。市長、よろしくお願いします。

市長：よろしくお願いします。

貴志：今回、とてもたくさんの方からのご意見・ご質問をいただきました。メールとツイッターで約60件、また、391人のアンケート回答を取りまとめていただいたお声も届いています。全てを取り上げることができないのですが、各分野から質問の多かったものを中心に市長に聞いていきたいと思えます。

まず、ひとつ目の分野です。学校や子どもたちが遊ぶ公園のことについてです。いただいたご意見を集約しています。やはり、学校の休校措置に伴って、いろいろなご心配があるようです。例えば「オンライン授業はできないのか？」というご質問です。これは、やはり一番多い質問でした。長引く休校措置に勉強の遅れなどを心配される保護者の方は多いようですが、市長、いかがでしょうか。

市長：4月当初何とか再開できる見通しはあったものの、緊急事態宣言を受けて休校の延長をしました。私も小学生の子供がおります。授業や学校について心配なことはたくさんあります。同じように多くの保護者の皆さまも感じておられると思えます。

オンラインの事業は、今すぐ行うには課題があります。学校の持っているネットの容量、未来ネットという京都府のシステムを利用しておりますが、回線の十分な容量が確保できないとか、それぞれご家庭でのネット環境も異なります。端末の有るご家庭、無いご家庭の差も配慮が必要です。現状、オンライン授業を行うことは難しいと思います。

今年、全小中学校で Wi-Fi 環境の整備をする予算を計上していましたが、そこまでまだたどり着けていない状況を踏まえ、違う様々な教材を教育委員会の方で考えていただいております。

特に、今後政府の判断にはなりますが、緊急事態宣言がちょっと長引くことも念頭に置く必要があると考えています。ぜひ、教育委員会とも協力しながらどういう体制が組めるか考えていきたいと思っております。

貴志：ありがとうございます。学校の休校に対しては、延長して欲しいという方と、対策をとって学校再開をしてほしいという方と、様々な角度でご意見をいただいております。

市長：そうですね。非常に難しいのですが、やはり子ども達の安全確保を最優先で考えなければならないと感じております。

貴志：では、もうひとつ。公園についても様々なご意見があります。

自粛生活の中、子どもの運動不足やメンタルを心配するお声と、公園に人が集まっても大丈夫かというお声です。市長、いかがですか。公園は遊んでもよいのですか？

市長：こちらの質問も両方のお声をたくさん市へいただいております。市として3月中は、出来るだけ子どもの居場所の確保から使えるようにしてきましたが、緊急事態宣言以降、外出自体を控えてほしいため、非常に苦しい決断ではありましたが市内でも子ども達が密集して遊べるような公園では、一部閉鎖をさせていただきました。御理解をいただきたいと思います。

ただ、散歩とかで公園を利用していただくことは可能です。長時間そこで遊ぶのを避けていただきたいと思います。

貴志：では、次の分野「放課後児童クラブ・保育園・幼稚園」にいきたいと思います。

貴志：放課後児童クラブや保育園を継続していただきたい、というご意見と感染拡大防止のために閉鎖すべきという意見。また、当たり前と思って預けられる方が気になる。という意見。様々ですが、市長、いかがですか。

市長：これも両方のご意見があると思います。

確かに、保育所、放課後児童クラブともすごく過密です。感染リスクは非常に高いと思います。当然、現場は相当神経を使いながら消毒等の対応をしてくれていると思います。

一方、休めるかということ、医療を支えていただいている方々やどうしても私たちの暮らしに必要な仕事を支えていただいている方々を考えると、一部、受け入れられる場所がやはり必要だと思います。

今は、原則、出来る限り家庭で子どものことをケアしていただき、どうしても必要な方だけの受け入れということをお願いしております。実際には、保育所も放課後児童クラブも通常の約半数にご協力いただいております。

ご不便をおかけしますが、ぜひこの点もお願いしたいと思います。

貴志：やはり感染拡大防止、みなさんの安全が何よりも大事です。みなさんの理解と協力が必要ですよね。

市長：現場の保育士さん、放課後児童クラブの指導員さんもこの間、非常に長い間対応していただいております、相当しんどい状態になってきていると思います。連休明けを見越したときに、もし継続しなければならぬ時には、次の措置というのも頭の片隅には置かないといけないと思っています。

貴志：では、続いての分野にまいります。「PCR 検査や病院の受けいれについてなど、医療について」です。まず、現在の PCR の検査数や、検査がすぐにしてもらえるのか。というご質問ですが、いかがですか。

市長：現状で京都府が発表している 4 月 23 日現在の PCR 検査数は 3,511 件だとお聞きをしております。

残念ながら医療の提供や検査の体制の拡充の権限は、京都府が持つておられますので、なかなか市としてどうしますということが言えない状況にあります。そういうお声はたくさんいただきますが、しっかり京都府へ要望していきたいと思えます。

貴志：病院の受けいれ先の心配と同様多かったのが、マスク不足に対するご意見です。マスク不足が深刻化するなか、医療施設や介護施設などへのマスク優先配布の希望や、市から市民へ配布されますか？ などのご意見があります。いかがですか。

市長：マスクのご心配もたくさんのお声をいただいております。市でも一定数の備蓄は持っておりますが、市民お一人おひとりに必要な枚数を配れるだけの在庫は残念ながらありません。

この間、市としては、子育ての関連施設や高齢者の施設等に優先的に

配布をしている状況です。やっとこの間にきて、行政として一定数確保できるようになってきたので、今は妊娠中の方などに優先的に配布しながら、また手作りマスク等の協力も求めながら対応しているところです。

お一人おひとりにお配り出来たらいいのですが、なかなか 8 万市民に今お配り出来るだけの備蓄はないというのが現状です。

貴志：それでは、最後の分野です。「給付金や事業者支援策」などについてです。みなさん、緊急事態宣言による外出自粛や経済活動の自粛要請を受けて、かなり深刻な状況でいらっしゃると思います。国や府でも様々な緊急支援策が発表されていますが、市独自の支援策はありますか？というご質問です。まず、みなさんが、いちばん気にされている国民一人ひとりに一律 10 万円を給付するという「特別定額給付金」について、いつごろ給付されるのか、どんな手続きになるのか、市役所のどこに聞けばいいのかなど、市長、いかがでしょうか。

市長：国の補正予算が可決されないといけませんので、それが 4 月 30 日頃だとお聞きをしております。それを受けて市として早急に予算措置をして、配っていくのに、振込先をお問い合わせする文書を送らせていただくこととなります。その文書を一斉に送れるように市



ではすでに体制を組んでおります。そこから返信をしていただいて、順次入金をさせていただきますので、出来るだけ急ピッチでできるような体制は整えておりますので、もうしばらくお待ちをいただけたらと思います。

貴志：ありがとうございます。着々と準備を進めていただいているんですね。その他に、市民生活に直結するような支援策はありますか？

市長：それぞれ生活も非常に厳しい状況がでてきますし、この先今の状況の影響が夏や秋まで長引いていくことが十分に想定されますので、例えばこの秋に下水道使用料を少し経営改善に向けて引き上げをお願いする予定をしておりましたが、これについては1年間の延期をさせていただくとか、そういうところもきめ細かく、議会のご議決がいりますが、しっかりと対応していきたいと思います。

貴志：ありがとうございます。いま、市内の飲食店やサービス業、そのほか様々な業種の方々が、それはもう逼迫した状況だと思えますが、そういった事業者さんへの支援策は何か考えていらっしゃいますか。

市長：先日商工会の皆様方と懇談させていただきましたが、悲鳴に近いお声をたくさんお聞きいたしました。

国も府も様々な支援制度をやっておりまして、予算措置ができてくるとなるとか行き渡っていくと思います。市としても、特に飲食業の皆さん、それから理容美容のサービス業の皆さんの売上げが相当落ちているということでもありますので、出来る限り早くお手元に資金が行くような、雇用に対する市独自の支援策ですとか、あるいはテイクアウトを一生懸命やっておられる店舗もありますので、そういうところを「#長岡京エール飯」というキャンペーンをしながら、少しでも支えていけたらと思います。

今議会とも調整をさせていただいております。スピード感を持って対応したいと思います。

貴志：ありがとうございます。私たちも、そのような支援策が動き出した時には、しっかり市内で消費するとか SNS で発信する、とかできることがたくさんあると思います。

貴志：市長、ありがとうございました。

市長：ありがとうございました。

貴志：まだまだ、たくさんのご質問・ご意見をいただいております。

ご意見・ご質問をくださった皆様、本当にありがとうございました。

今日、この場で、すべてにお答えする時間がありませんが、今回ご紹介

介できなかった意見・質問については、市役所ホームページに回答とともに掲載してまいりますので、そちらもぜひご覧ください。

それでは、市長、最後に市民の皆様一言、お願いします。

市長：今の苦しい状況は、もうしばらく続くんだろうと思います。今、我慢をしていただくことが、私たちの日常をいち早く取り戻していくためには、一番の近道になると思います。そして、そのことが命を守ることにもつながってきますので、今しばらくのご協力を改めてお願いを申し上げたいと思います。よろしくお願いします。

貴志：今日は市長、どうもありがとうございました。

市長：ありがとうございました。

貴志：それでは、市長と語る「対話のわ」～緊急企画「新型コロナウイルス感染症 ver.」を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。